

JET、これからの展望

皆さま、いかがお過ごしでしょうか？

JET前代表理事、岸和田徳洲会病院の横井良明です。医療者の皆様は現在のコロナの影響で大変な日々を過ごされておられることと存じます。

また、一部の病院ではコロナ患者の受け入れのために日常診療を制限せざるを得なくなっているため、先生方のインターベンション治療にも影響を与えていることと思います。このような社会に大きなインパクトを与えるウイルス性感染症が我々の日常の行動様式に変化をもたらしています。



名誉理事：横井 良明
(岸和田徳洲会病院 循環器内科)

JETはわが国で最も大きな血管治療のライブコースで、その内容はアジアトップであり特に韓国、台湾、ベトナム、シンガポール、オセアニアの先生方には大きな影響を与えることができました。若い先生を中心とした会で、会の公用語を英語としたことも良かったものと考えております。

また、多くの会員の皆様に一年に一度の JET で研究成果を披露していただき、議論を深めあったことがすでに懐かしく思われます。多くの学会やライブコースでネット配信などがされているようですが、4K 画像が日常になり、8K の画像も家庭で視聴可能な時代、パソコンの不鮮明な画像でのライブ配信には限界があると思います。また会員同士が face to face で議論しあってこそ、ライブの成果も上がるものと思われます。ネット配信には限界があり、いずれ何らかの集まりが再開されるものと思います。来年には PCR の検査、コロナに対する抗体検査などが一般化し、より安全に会が運営できる状態になっているものと推測します。

この会は、現在の臨床のアップフロントにいる若手医師により常に変革されています。ポストコロナ時代にまた新しい視点でライブコースが再開されると信じております。多くの学会の先駆けになるような会を構成していただきたいものです。会員の皆様がこの困難な時代を強く乗り越え、新しい形で JET を開催していただき、常に世界にインパクトを与える会であり続けていただきたいと願います。何卒会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。